

正 誤 表

下記の部分に誤りがありましたので訂正させていただきます。

ご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

2011 徹底解説 データベーススペシャリスト 本試験問題

No	修正箇所	修正前	修正後
1	H21-123 上から 12 行目	(2) a : <u>検査日</u> , 評価日, 経過月数, 目標値	(2) a : 評価日, 経過月数, 目標値
2	H22-114 下から 14~9 行目 目を削除	[設問 2] (1) 中間 (<u>中間 ID</u> , 中間作成日時, コース ID, 制限時間) 中間小問 (<u>中間 ID</u> , <u>小問番号</u> , 小問 ID) 大問中間 (<u>大問 ID</u> , <u>中間番号</u> , 中間 ID) 出題 (<u>大問 ID</u> , 大問作成日時)	
3	H22-114 下から 4~1 行目 及び, H22-115 上から 1 行目を 削除	[設問 2] (2) 採点 (<u>受講者 ID</u> , <u>大問 ID</u> , <u>解答日時</u> , 解答時間, 評点) 回数 (<u>受講者 ID</u> , <u>大問 ID</u> , 解答回数) 解答 (<u>受講者 ID</u> , <u>解答日時</u> , <u>小問 ID</u> , 解答, 得点)	
4	H22-117 下から 7~1 行目 を削除 H22-118 図 A の下 1 行目 ~H22-119 の最 終行まで削除 (図 A は残す)	ここで, 上記の関係“中間小問”…(c), 関係“大問中間”…(d)の共通属性の中間 ID に注目する。中間 ID は, 一見どちらの関係の候補キーでもなく, 共通属性として, この二つの関係を自然結合できないように思われるかもしれないが, この中間 ID の場合は自然結合してもよい。なぜならば, (c)の候補キーの中間 ID と小問 ID には, 中間 ID が決まれば, 小問番号 (の組) が決まるという多値従属の関係がある。中間 ID → 小問番号である。したがって, 中間 ID が決まれば, 小問番号 (の組) が決まるので, (c)と(d)を中間 ID で自然結合すると, 仮の名前を大問中間小問として大問中間小問 (<u>大問 ID</u> , <u>中間番号</u> , <u>小問番号</u> , 小問 ID) が得られる。したがって, 上記の関係“大問中間小問”から小問 ID がない関係は, 先の候補キーだけの“出題”と等価な関係となる。 出題 (<u>大問 ID</u> , <u>中間番号</u> , <u>小問番号</u>)	

(裏へ続く)

		<p>以上から、上記の関係“出題”は冗長で必要ないので、上記の関係“大問”の名前を“出題”に変更して、改めて次にまとめる。</p> <p>出題 (<u>大問 ID</u>, 大問作成日時) …(a)</p> <p>中間 (<u>中間 ID</u>, 中間作成日時, コース ID, 制限時間) …(b)</p> <p>中間小問 (<u>中間 ID</u>, <u>小問番号</u>, 小問 ID) …(c)</p> <p>大問中間 (<u>大問 ID</u>, <u>中間番号</u>, 中間 ID) …(d)</p> <p>なお、参考までに、多値従属性の推移律を用いると次のように議論できる。関数従属性は、多値従属性の特別な例であるから、{大問 ID, 中間番号} → 中間 ID は、{大問 ID, 中間番号} →→ 中間 ID でもある。したがって、{大問 ID, 中間番号} →→ 中間 ID →→ 小問番号が成り立ち、推移律から {大問 ID, 中間番号} →→ 小問番号が成り立つと解釈できる。多値従属性の推移律は、$X \rightarrow Y, Y \rightarrow Z$ があるとき、$X \rightarrow (Z - Y)$ が成り立つことが証明されているが、この場合は、Y と Z に属性の重なりがないので、関数従属性と同じ形態の推移律が成り立つ。</p>
5	<p>H22-120 上から 15, 16 行 目を削除, 右記と 置換え (図 B は残す)</p>	<p>ここで、上記の関係“採点” … (ア), 関係“解答” … (ウ) の共通属性の {受講者 ID, 解答日時} に注目する。{受講者 ID, 解答日時} は、一見どちらの関係の候補キーでもなく、共通属性として、この二つの関係を自然結合できないように思われるかもしれないが、この {受講者 ID, 解答日時} の場合は自然結合してもよい。なぜならば、(ウ) の候補キーの {受講者 ID, 解答日時, 小問 ID} の {受講者 ID, 解答日時} と小問 ID には、{受講者 ID, 解答日時} が決まれば、小問 ID (の組) が決まるという多値従属の関係がある。{受講者 ID, 解答日時} →→ 小問 ID である。したがって、{受講者 ID, 解答日時} が決まれば、小問 ID (の組) が決まるので、(ア) と (ウ) を {受講者 ID, 解答日時} で自然結合すると、仮の名前を採点解答として</p> <p>採点解答 (<u>受講者 ID</u>, <u>大問 ID</u>, <u>解答日時</u>, 解答時間, 評点, <u>小問 ID</u>, 解答, 得点) が得られる。したがって、上記の関係“採点解答” から解答時間, 評点, 解答, 得点がない関係は、先の候補キーだけの“答案”と等価な関係となる。</p> <p>答案 (<u>受講者 ID</u>, <u>大問 ID</u>, <u>小問 ID</u>, <u>解答日時</u>)</p> <p>以上から、上記の関係“答案”は冗長で必要ないので、改めて次にまとめる。</p> <p>採点 (<u>受講者 ID</u>, <u>大問 ID</u>, <u>解答日時</u>, 解答時間, 評点) … (ア)</p> <p>回数 (<u>受講者 ID</u>, <u>大問 ID</u>, 解答回数) … (イ)</p> <p>解答 (<u>受講者 ID</u>, <u>解答日時</u>, <u>小問 ID</u>, 解答, 得点) … (ウ)</p>